

おはようございます。監督さんはじめ、指導者の皆様には、日頃、高校球児の健全育成のため、土曜、日曜の休日も、そして暑い日も寒い日も、雨の日も風の日も御尽力いただいていますことに、連盟を代表して心より厚く御礼を申し上げます。

選手の皆さんも、そして指導者の皆さんにとっても、練習する目標は甲子園出場にあると思います。私は選手時代も監督時代も甲子園に行ったことはありませんでした。しかし、平成22年の夏、高野連事務局長として初めて甲子園球場の中に入りました。時刻は夕方、大観衆の声援の中、カクテル光線を浴びてプレーしている高校球児を見た時、あまりの感動に言葉を失い涙が出てきました。「自分が目指してきたところはこんなに素晴らしいところだったんだ」と、しばらく体が震えていました。そして、ここを目指して厳しい練習に耐えてきたことも、また、同じ目標に向かって選手を鍛えてきたことも間違いではなかったと、強く確信しました。甲子園に出場した経験のある先生方も、またこれから出場しようとする意欲に燃えている先生方も、どうか信念を持って頑張ってください。高校球児の夢と純粋さを失わせることなく、憧れの甲子園を目指して一緒に頑張ってください。

ただ、出場するためにはただ闇雲に頑張るだけでなく、高校野球が教育の一環であるという理念を忘れず、マナーや大会運営上の高野連の規定を遵守するなど、高校生らしいプレーを徹底させて、高校球児を社会に有為な人材として育てていただきたいと思います。不祥事件等は絶対起こさせないという固い決意を持って指導にあっていただけますようお願いいたします。

本日は審判部との研修会もこの後ありますが、そのことについて一言お話しします。先日審判部の方々と懇親を深める席がありましたが、そのときにお話ししたことは、高校野球は教育の一環であるという理念から、指導者も審判員も同じ立場で高校球児を育てていただきたいということでした。両者の違いは「指導者はノックバットを持って指導できるが、審判員にはそれができないだけです」と述べ、それ以外は全く同じなので、協力して試合や大会の運営をしてくださいとお願いしました。

この研修会は、シーズンを前に指導者と審判員が共通理解を持って1年間高校野球をやっていくという確認の場であります。どうか活発な意見交換をして、一緒になって高校野球の指導に当たってください。本日は1日長い時間となりますが、有意義な研修会となりますよう御祈念申し上げて、私からの開会のあいさつといたします。本日はどうかよろしく申し上げます。